

# 第3回伊野町・吾北村・本川村合併協議会 新町将来構想策定小委員会会議録

【日 時】 平成15年5月13日(火) 午前10時03分～午後0時04分

【場 所】 すこやかセンター伊野大会議室

## 【出席者】

小委員会委員

	伊野町	吾北村	本川村
学識経験者	岡 健市	筒井 静一	中平 一三
	欠 席	弘瀬 和子	山中千代子
	佐藤 廣志	北川 一海	伊東 誠
	山本 高裕	岡田 桂	川村 明人

オブザーバー

上田 周五	和田奨四郎	山中 幹夫
-------	-------	-------

幹事会

岡林 正憲	筒井 正典	松本 健市
-------	-------	-------

事務局

本山 博文	氏原 憲明	別役 理佳
土居内淳一	天野 里香	北川 博章
上田 太久	津野 加奈	

傍聴人 2人

## 【欠席者】

小委員会委員

土居美代子
-------

【 1 開会 午前 10 時 03 分】

事務局長：第 3 回新町将来構想策定小委員会の開会を宣告。

【 2 委員長あいさつ】

委員長：4 月 21 日の第 2 回小委員会では、新町将来構想の事務局案をもとに協議を行い、さまざまなご意見やお考えがあり、将来構想を協議会に報告するまでには、さらに議論を深めて行かなければならないと感じている。

各委員の皆様には、新町の将来の姿を描くというこの小委員会に与えられた役割を果せるよう、様々な角度からご協議いただけるようお願いして挨拶を申し述べる。

【 3 会議録署名委員の指名】

委員長：会議録署名委員の指名を行う。

弘瀬 和子委員、山中 千代子委員を指名しお願いする。

【 4 議題】

委員長：本日の出席委員は、11 人で、当小委員会の委員数 12 名のうち 3 分の 2 以上の出席があり、伊野町・吾北村・本川村合併協議会小委員会設置規程第 5 条第 2 項の規定により当小委員会が成立していることを宣言。

また、同規程第 5 条第 3 項の規定により、委員会の会議の議長は、委員長が務めることを了承願ひ、議題に入る。

委員長：第 2 回の小委員会の以後に事務局が、各委員から個別に話しをお聞きしているので、どのような意見があったのかについてと、本日の小委員会の進め方について事務局から説明を求める。

土居内計画班長：各町村毎に委員さんをお訪ねし、聴取させていただいた意見を意見要旨としてまとめてあるので、若干漏れもあると思うが本日の協議の参考にしていただきたい旨、申し述べ意見要旨について説明。

協議の進め方について、新町において、合併後 10 年以内にこれだけは実現したいことについて、新町において、住民相互の交流や新たな町づくりを推進するために実施する新たなソフト事業についての 2 点にテーマを絞り、意見を出し合っただきたい旨、申し述べ説明を終わる。

委員長：ただ今、事務局から、新町として実現する公約や新たなソフト事業を新町将来構想に追加してはどうかとの説明があった。

本日の協議事項となっているが、追加を予定するこの 2 つのテーマについて、協議を進めていく。まず、「合併後 10 年間にこれだけは実現したいこと」について、次に「新たなまちづくりや新町の住民相互の交流を推進するための新たなソフト事業」についてを各委員、順番に発言をお願いする。

中平一三： について、山岳観光の推進ということに力を入れていったらどうかと考える。

石鎚公園線を 1 車線でもよいが拡幅をして、観光バスの乗り入れ可能な道にすれば、車がたくさん通って排気ガスで自然を汚さずに済むし、また、車に乗らない方でも

観光バスに乗って自然を楽しんでいただけないかと思う。

10年と叫ぶが、大型バスの乗り入れが可能な道に拡幅して、四国の山を楽しんでいただけたらいいということで、山岳観光の推進、道路の早期改善ということに取り組んでいてもらいたいと思っている。

について、休校中の小学校校舎の活用を考える。

青年団、婦人会、老人会などの各種サークルの会合の場所として、合宿も出来るような形にすれば利用できるのではないかと思う。若者の交流場所など、幅広い解放で、交流の場を作れば、休校舎の再利用が出来るのではないかと思う。

山中千代子： について、住民の健康をつくる町づくりを考える。

食生活改善を推進することによる結果は、10年後に出るということを聞いている。

10年以内にこれだけは実現したいという話の中では、住民の健康をつくる町を目標ということで、取り組んでいきたいと思う。

今、食生活改善とか健康づくり婦人会とか、健康づくりの団体があるが、この10年間に取り組めば、10年後に老人ホームが不足という問題、それから介護保険をかけても受けないということ、それから医療費を抑えるということまで、たどり着くと思うので、住民の健康をつくる町を目標に、予防という面から取り組んでいけば、結果は全てよい方につながるんじゃないかと思う。

について、総合スポーツ施設の整備の促進を考える。

例えば、新町の中心となる吾北村辺りに、子供から高齢者まで利用できる総合スポーツ施設、例えばプールや屋内スポーツ、グラウンド、子供の遊べる公園などが一つの場所があれば、伊野の方からも、本川の方からも子供から高齢者まで集まって、その町が寂れるということなしに、残れる町になるんじゃないかと思う。

川村明人： について、総合的観光を売り出しを考えていくうえで、本川の山岳観光は、当然、新町の建設計画に入ってくるものと思うので、今回の場合は、総合的なスポーツ施設の整備を考える。

このことは、ひいては のソフト事業にもつながって進めていきやすいのではないかと思う。

山中助役： については、木の香温泉のホテルの改修というのがあるが、これは相当財源がいると思うが、温泉棟を改修して県外からの利用客もあり、年間6万人近くに上っている。宿泊棟の方が古くなっているので、その改修を10年以内を実現していただきたい。

また、木の根ふれあいの森の未整備部分や道路の改良を考えている。

については、現在、村で行っているイベントをずっと続けて、各町村間の交流を図っていくように考える。

和田助役：福祉対策、若者定住のための施策として、安定した生活（働く場の確保）、働く場がなければ通勤に時間的ハンディーをなくすということを考えている。

岡田桂： については、希望としては、人が集まる観光地として例えば水族館などの整備、また、土地利用により集合店舗のような整備をしてはどうか、観光地のような形で新町を売り込んでいってはどうかと考える。

福祉の町づくりとかは、しなければいけないことではあるけれども、新しい何かをということを公約としてやっていってはどうかと思う。

北川一海：合併は夢のあるものばかりではないと考えている。悲観的な言い方かもしれ

ないが、生やさしいものではないと思う。

については、必要最小限に現在の3町村で計画している事業を実施するということが、まず、大事であると考えます。

夢のある事業を羅列することは簡単だが、先立つものは資金である。それがために事業を実施するとすれば、やはり企業の協力を得ることが必要となってくる。そうなってくると、自分たちがああしたらよい、こうしたらよいと言ってもなかなか簡単には出来ないことではないかと思う。

夢のあるものを一つぐらいあげるとすれば、資料でいただいたアンケートの意見の中に「温水プール」という意見があったが、スポーツ関係、健康づくりを含めた関係でそういうものを整備するということが、ささやかな願いというふうに思う。

したいことはいくらかもあるし、皆さんが言われることも違うということは一つもないが、それを実現できるかどうかというと考えた場合になかなか難しいと思う。

10年間の特例債がある内に、まず、現況の事業の見直しをして、出来るものと出来ないものをさびわけていくということが、大事ではなからうかと思う。

弘瀬和子： については、新町の庁舎を10年以内に実現してほしいと考える。

しっかりした行政の骨格をつくってもらいたい。その上で、行政の簡素化を図ってほしいということで、ただ、簡素化を早く進めるということはあまり賛成しない。住民の福祉に対して隅々まで行き届いた行政をしていただいてから簡素化をしてほしいと思う。

については、高齢化が進む吾北村での自分の取り組みの中から、一人暮らしの老人の支えとなるようなリーダー育成研修会などを開催してほしいと思う。

上田助役： 行政の立場で委員会に出席させていただいている。

皆さんの意見のまとめを見せていただいたが、その中で伊野町の委員さんの意見で、感じたことを述べる。

伊野町の現状を厳しく見ているご意見、また町の将来の活性化策に向けたご意見などあるが、現在の伊野町の第3次振興計画の中で位置づけしているものも多々ある。これをいかに具現化していくかが一番の問題であると感じている。

ご意見の中の「親と一緒に住める状況づくりが必要」というのは、これは将来に対して夢があっていいと率直に思う。「さくらんぼの観光農園」というご意見についても夢があり、いいだろうと思う。

やはり、こういった将来の町づくりの計画については、経験上、行政の関わりも大事だが、行政主導でなくある程度民間主導で、こういった可能性を探っていく必要があるのではないかと思う。行政と民間が上手にかみ合わない計画してもなかなか実現できないのではないかということがある。

計画を策定したとき、全て一気にということは、困難であるとは思っている。

役場職員の人づくりについてもよい意味の係争意識であるとか、民間意識の導入とかが、今後ますます必要になってくるんじゃないかと思う。

人づくりが一番重要じゃないかと思うので、難しいことであるが、構想の中で表現し、計画の中に位置づけていけたらというように感じている。

山本高裕： について、若者の居着く町ということで入れたかったが、意識調査の資料をいただいたり、例として老人ホームの入所待機者ゼロを目標に取り組みとかを見て、今までの委員の皆さんの意見も踏まえて、やはり福祉の方で考えてはどうかと

思う。

財政的にも難しい面はあるとは思うが、あえて、この合併を機にお金はいっても福祉関係で考えたらいいのではないかという意見である。

について、子供の海外留学を考える。

自分たちも海外へ行かせてもらったが、ぜひ中学生の海外留学をさせてほしいという意見も出ていた。そして、いい経験を積んで帰ってきてほしいと思う。

佐藤廣志： について、現在の伊野町は県都高知市の西隣の町で、交通の便もよいところであるから、これからは、本川村へ向かっての交通が一番課題になるところであるが、民間の交通機関と協力し合っていけば解決できると思う。

天下の仁淀川が新しい町となっても、全体を抱え込んで流れている。これはすばらしい宝物だと思う。

こ意見要約の中に、伊野町を商業・工業のゾーン、吾北村を農業ゾーン、本川村を観光重点ゾーンとあるが、常時人が集まる方法は何かと考えると各町村で一番魅力のある産業興しを絞っていくにはこのゾーンわけはよいと思う。

については、新しい町になったらいろんな組織機関を通じてお互いに行き来しあえるので、比較的簡単だと思う。それでも高知市に出ていく人の流れが現在多い。やはりそれに負けないようなものを3町村で作っておかなければならないと思う。温泉は観光地に付き物であるので、魅力ある温泉宿の整備をする必要があると思う。（吾北村の道の駅に温泉が出るのであれば是非造るべきだと考える。）

また、簡保や地元温泉についても役所と協力連携をしてもっとPRしていくべきだと思う。

人に投資してもらおうとか、お金を落としてもらおうことが、町づくりの目玉として考えなければいけない例ではないかと思う。

筒井静一：最初の小委員会で、各町村の振興計画を見せていただいたが、各町村の振興計画の中からピックアップして実現可能なものから取り組むべきと考える。

について、村道瓶が森線を県道に昇格させる。ある程度常時通行可能な道路に整備をすることが必要である。土砂崩れ等で通行不可能では、観光にマイナスである。194号線が土砂崩れ等で、長期にわたる通行止めになると、迂回路がない。産業道路として壊滅的な打撃を受けたのであるが、これに変わるべき道路が、本川村、伊野町間に必要であると思う。

について、町民際を1日～2日ではなく、10日間位を目安として、町民あげてのイベントにして町民の交流を図っていくことが必要であると思う。イベントを考えた場合に、吾北村でいえばもみじ祭や陣ヶ森の登山、本川村でいえば氷室祭や源流まつり、伊野町でいえば紙のこいのぼりなどを一つのリレー形式で連続性をもたせてイベントを開催すれば町民の交流も図れるのではないかと思う。

伊東誠：本川村の場合は人口も減少している。行政そのものの運営が困難になっていく、村の存在が危うくなるということで、この合併へ願い参画していただいた実態である。3町村の中で一番広い面積、森林を持っている村として、3町村に何らかの貢献ができればよいと思う。

については、拠点となるべき新庁舎を10年のうちには建設をする方向に進んでほしい。経済性を高めるということになると、生産性と非生産性の2つに分けて考えなくてはならない。若者のUターン、Iターン、交流もろもろが活発に行われな

ければ合併をした価値観がなくなってくる。生産性の面においては伊野町には紙工場があり、医療施設の拡大とか、お金を伴うことで、委員会での発言の期待の限界、いわゆる3町村の行政上の問題に介入しすぎても、いきすぎになる。

生産性の問題。特に吾北、本川にしてもたくさんの森林がある。吾北村には国有林がなく個人の財産の集約された多くの森林がある。本川村は国有林が6割を占めている。かつては本川村は華やかな林業時代を林業の村として発展をした。戦後木材価格の下落で、造林、手入ればかりで国有林も影がなくなっている。企業的な問題は時の流れによって変わる。3町村の森林組合の働き場所として、本川は立ち上がってもよいのではないか。越知町、佐川町ともに貯木場をつくり、池川に国有林がある。隣がそのような準備をしているのに、合併したこの3町村も早く手をうっておかないと、隣に侵入されるのではないかという心配があるのでそういう構想も練っていただきたいと思う。

については、過去の昭和の合併は今日までまだ旧町村のエゴが残っている。平成の合併は今そのような時代ではない。合併となるとマイナス点ができてくるが、それをどのようにしていくか、そのためには住民融和の問題を考えていかななくてはならない。具体的なアイデアは専門部会で検討していかななくてはならないと思う。住民融和の施策を望む。

(休憩 11時11分～11時20分)

土居内班長：福祉、観光の2点に対する意見が非常に多かったと感じた。2点についてもう少し議論を深めていただきたい。福祉については住民のアンケートの中で、高齢者、障害者の関係で住民の方からご意見をいただいているので簡単に披露させていただく。まず高齢者対策については介護施設の充実、老人ホームの増床を望む声が若干ある。介護保険料についての意見等があげられている。具体的意見として、老人憩いの家を造ってほしい、高齢者、身体障害者が安心して住める、年金でまかなえる安い集合住宅を造ってほしいというご意見。保育所と宅老所を一つにして、子供と老人が楽しく生き生き暮らせる施設をつくってほしい。高齢者が楽しく集える場所、旧校の跡地を利用したものをつくってほしい。シルバー人材センターの拡大。そういったものが住民アンケートからあがってきている。障害者対策については、身体障害者の仕事のできる場、公共施設や学校等の施設のエレベーターの設置、身体障害者協議会の設置、そういった声がある。今の子供や若者に日々の生活の中で、福祉に関する意識を持たせられるような社会環境作り、そういった施策を願う。病気や周りから阻害されがちな山の上の方で生活している老人を援助しやすいように降りてきてもらうとか、一人暮らしの高齢者のため心のケアをお願いしたいとかの意見が住民アンケートからあがっている。福祉の充実という委員さんの意見も多かったように思う。その部分について新町になったの取り組んでみたらと言う意見があればお願いします。

北川一海：福祉の充実が町村民すべての願いである。一方で施設介護とか充実することで介護保険料が上がるという問題もでてくる。合併したら福祉は充実したという町作りが推進されるのが望ましい。福祉の充実と併せて健康づくりも進めていくということ要望する。

伊東誠：先の新町計画策定（案）で福祉について仁淀病院、本川国保診療所については充実するという表現になっているが、このままでは10年たってもこのままになるのではないかとも思う。国、県の援助が必要となってくる。我々も介護保険料の値上げがあると思う。仁淀病院を医療の西の拠点になるような施設にさせていただきたい。その隣に福祉の老人ホームを建てて入所待機者をなくしていただきたい。これを新町の重点プロジェクトとして取り組んでいただきたい。

佐藤廣志：後期高齢者が増加している。高度な医療の進歩で長命になってきている。福祉にかかる人が増える。福祉の施設を造ることも大切である。福祉事業は新しい町になっても重要になるであろう。今の仁淀病院だけではまかないきれない。吾北村も、本川村も今ある施設では十分ではないであろう。介護4で入所した人が介護3に回復できるようリハビリを受けれるような施設を造ってほしい。

土居内班長：住民アンケートから仁淀病院についての意見がある。仁淀病院が地域の医療の中心かつ老人医療におけるリハビリから最終までの運営が出来る施設に機体をする。数年前のような診療科目をおいてほしい。気軽にかかれる病院があれば高齢者は安心できる。というような住民からの意見がある。福祉、医療に関して各委員さんの意見のように必要である。医療、福祉について財政的負担を考えながら議論を深めていかななくてはならない。

観光について本川村からは、もっと山岳観光に力をいれたいという意見があった。住民アンケートの中の意見からも、工業とか商業といったいろんな産業振興がある中で、観光の振興をベースにした産業振興を望む声が一番多かった。

具体的なアイデアとしては、仁淀川の淡水魚の保護水族館をという声、仁淀川沿いにサイクリングロードを造ってほしい、仁淀川を利用した川下りや鵜飼などをやってみてはというご意見、寒風山のロープウエーの登山、町村の四季折々を紹介するバスツアー、森林を里山に変えていって自然のあるがままを観光地に、よさこい祭りに続く大きなまつりをしてみたい、休校を利用しての宿泊施設、あるいは芸術農業、食生活などを体験できるような施設にしてみても、多くのご意見がっている。

住民の方から見たときに、観光というご意見が多かったし、委員の方からもそういうご意見が多いが、具体的に地域に眠っている観光資源をどういったふうに活用、発信をしたらよいというご意見があれば、お聴きしたい。

委員長：ただ今事務局から説明があったが、これについて何かご意見はないか問う。

中平一三：先日の水中こいのぼりのイベントに、参加した。

本川村からは、自然を持っていこうということで、模索した結果、自然の氷を持って参加した。朝から、その氷は夕方まで溶けなかったので、自然というものは強いと思った。そのイベントの中で、自然を愛する人をたくさん見たので、これからも自然を大事にしていきたいと思う。

また、その会場に観光マップが出ていなかった。目玉商品があってもそれを周知する手段、方法が必要ではないかと思う。

北川一海：中平委員のご意見に全く同感である。自然観光には、財政的負担が少ない。ハード事業には破壊が伴うわけだが、自然をそのまま保護していく、守っていくことには財政的負担は伴わないし、みんなが同じように供用できる利点がある。

話が異なって申し訳ないが、先ほど、福祉と健康づくりについて述べた。福祉の充

実際にはお金がかかるが、健康づくりにはあまりお金がかからないということを事務局に願います。財政的負担をあまり伴わないで、町民が幸せになる、新町が素晴らしい合併であったという町づくりを計画してほしい。

委員長：3町村の自然の施設の利用をPRしていったらよいと思う。

他にないようであれば、事務局から何かないか問う。

土居内班長：3町村の助役さんが同席しているが、今後、事務局と3町村で案を練っていくうえで、委員さんにお聴きしたいことがあればお願いしたい。

和田助役：将来構想(案)に記述していることは、ここで具体的に述べなくても実現できると理解をしてよいか問う。

土居内班長：将来構想の中で、例えば本川村の国保診療所とか仁淀病院の充実とかいうのは、現時点でも位置づけしている。将来構想の構成については、新しい町になったときに、こんなものが出来るということがわかるような形に事務局で見直してみる。

今日のご意見の中で、いろいろ貴重なご意見もあったし、また、アンケートの中でも様々な貴重な意見もある。どういう町づくりをしていくのかについては、また議論が必要になると思う。

ご意見が他にないようであれば、次回小委員会について事務局の方から日程等のご説明をさせていただきたい。

和田助役：3町村の振興計画から、取捨選択して、優先順位をつけてやっていくことがよいと思う。

もう一点、10年間でこれだけはするということで、これは新しい町がすることと、県、国がしてくれることと二通りあると思うが、県、国が関連することについてはどうか問う。

土居内班長：新しい町づくりのために、県、国の役割が必要なものについては、将来構想の中に一定、記述していくということになるが、公約的な記述が出来るかどうかということについては、当然、県、国の考え方を聞いてからになるので、10年間でそれが出来る出来ないという判断は、こちらが判断をすることは難しいと思う。そういった部分については国、県の役割をきちっと明記して位置づけをしたいというものがあれば議論をして、それをどういうふうに将来構想に載せていくのかは次の段階になると思う。

北川一海：財政的な裏付けがないと実質的な計画にならないと思うが、助役の言われたように、国、県の関係ということは、財政計画を立てる場合に国なり県なり、或いは起債なりの見通しがたっていないものは、計画が成り立たないという形でなくて、一応そういうものも見通しの中で計画を立てていくべきだと思う。確定してからでは、なかなか難しいと思うので、よろしくお願いしたい。

土居内班長：財政計画というのは、当然、今回の建設計画の中で念頭において立てなければならないと考えている。

何を優先させるのかということは、非常に難しい問題で、各町村がそれぞれの振興計画、或いは過疎、辺地、それぞれの計画を持っている。その中で具体の事業もあるので、新町としてどれを残していくのか、全て引き継げるのかという部分もあるし、新町としての課題に対応するための新しい取り組みも当然のことながらしていかなければならないというふうに思う。

一つひとつ整理できていったらいいが、どれもこれも関連をしていることなので、この小委員会ではこの10年間にどんなことを実現したいのかということのご意見をいただき、それを実現するとすればこれくらいの財源があると、そうなれば現実的にはなかなか難しいのではないのかというふうな議論しか今の段階ではできないと思う。細部については、例えば既存の事業をどうしていくのかというような具体のものが出てきた段階で検討しなければいけないことだと思う。

北川一海：我々がどこまでタッチしてよいかかわからない。最終的な決定は首長なり、議会なりということになると思うが、少なくとも計画の段階ではある程度見通しを立てて、財政計画もすり合わせていかなければならないと思うし、総枠の策定というものも必要になってくると思う。

小委員会の意見を集約する段階では、意見だけを聴いて、事務局で集約して計画にあげるといのように理解してよいか問う。

土居内班長：ご意見いただいた分につき、重要と思われる部分を再度3町村に協議をして、今の現状で財政的に可能かどうかというところで、さびわけをしていくというふうな話になると思う。

次回には、本日ご意見いただいた分、住民アンケートの中のご意見、また3町村の中でいろいろ知恵を出し合って、新しい町に何が必要かという部分を検討し、そういった部分を具体的に将来構想の原案に追加記載をしていきたいと思う。

次回の小委員会では、そういった追加記載をしたものをベースに、再度、ご議論をお願いしたいと考えている。

和田助役：新しい町ですることは、もちろん財政的な裏付けがないと言えないが、国、県がすることの中で、例えば国道33号のバイパス、枝川の浸水対策等については、新首長の確約でなしに、新首長の努力目標として掲げていただきたいと思う。

：土居内班長：それはそういう考え方で進めていきたいと思う。

伊東誠：将来こういう可能性があるかどうかということについてご意見をお聴きしたい。

本川村の場合、学校が休校になり、また、国保診療所の2階ががら空きの状態である。これらを利用しながら、例えば老人ホームに改修するなど高齢者問題に活用できないものだろうか。合併と同時に、縦割り行政を打破して、せっかくあるそういう施設を何とか活用できないものかと思う。

そこの辺りの便宜を図っていただけると、ああ合併してよかったと、古い町村の時にはできなかったことができたというふうな、時限立法的なものでよいかから、大きな施設が出来るまでの間、何とかそういう門戸を開く努力をお願いしたいと思う。

委員長：それでは、事務局から、今後の協議スケジュールなどについて、説明を求める。

土居内班長：次回、第4回新町将来構想策定小委員会については、5月30日午後2時の予定だが、委員さんのご都合により再度、日程、場所の調整をして後日連絡させていただきます。

委員長：閉会を宣言。

【5 閉会 午後0時04分】

上記会議の顛末を記載してその相違ないことを証するためここに署名する。

平成 年 月 日

委員長

署名委員

署名委員